

南朝正平十三年 北朝延文三年四月三十日

八四六

餘所の峯より散さくらかゝ

前大納言尊氏

〔菟玖波集〕

雜十三
連歌二

遠やまのえけるかたよの風吹て

よそよりそゆる嶺のまつら

前大納言尊氏

〔菟玖波集〕

雜十四
連歌三

秋のさう野に露のふるさと

せり川のさゝれふえたる跡かれや

前大納言尊氏

そのえたしその數はおほえす

秋の名残そ春はひとしき

前大納言尊氏

よしあしもわかぬは君うめくそよて

車をつくるたくみなりなり

前大納言尊氏

さむくあるうあたは駒やいとゆらん

鳥はとあみのえたよこそをめ

前大納言尊氏

〔菟玖波集〕

雜十五
連歌四

夜はかかく齡の末はをくあくて